

七
中
部
太
平
洋
方
面
部
隊

2072

歩兵第四十四連隊第一大隊（備第一七五三九部隊）

年	月	日	略	歴
昭和	一六	七	七一六	軍令により歩兵第四十四連隊第一大隊編成下令
		七	二二	編成完結（高知）
		八	三	屯営出發
		八	一一	鮮満国境通過
		八	一三	東安省虎林着
				同日より同地附近の警備
	一九	二	二二	陸軍機密第一〇〇号により第六派遣隊に転用
		二	二六	東安省虎林出發
		二	二八	鮮満国境通過
		三	一	釜山着
		三	三	釜山出發
		三	四	門司寄港
		三	八	横浜港着
		三	九	同港出發

昭和一九	三 一〇	東京港着
	三 一二	同港出港
	三 一九	サイパン島寄港
	三 二〇	同港出帆
	三 二〇	大宮島上陸
		同日より同地守備
	九 三〇	大宮島において玉碎

(註) 大宮島における戦闘間負傷等により米軍の俘虜となつた者及び少数の生存者は
終戦後米軍により各個に復員した。

歩兵第四三連隊第三大隊

昭和	年月日	略	歴
一六	八二	動員完結（東安省虎林） 爾後虎林附近の警備	軍令により歩兵第四三連隊第三大隊臨時動員下令
一九	二二六	陸軍機密第一〇〇号に依り虎林出發	
	二二八	鮮満国境通過	
	三一	釜山着	
	三三	釜山港出帆	
	三四	門司港寄港	
	三八	横浜港寄港	
	三一二	東京港出帆	
	三一九	サイパン島寄港	
	三二〇	サイパン島出帆	
	三二〇	マリアナ諸島大宮島上陸	
		同日より同島警備	

昭和一九三〇

大宮島(クアム島)において玉砕

(註) 大宮島における戦闘間負傷等により米軍の俘虜となつた者及び少数生存者は終戦後米軍により各個に復員した。

第二十四歩兵団司令部（備第一七五三二部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九四五年	陸軍機密第一七五号に依り第二四歩兵団司令部編成下令
四 六	編成完結（東安省西東安）
四 七	西東安出發
四 八	鮮満国境（図們）通過
四 一四	釜山港出帆
五 四	鎭山港出帆
五 一七	「グアム」島西北方約一七〇哩附近の戦斗に参加
五 一九	南洋群島「サイパン」上陸
七 一八	同日より同島守備 「サイパン」島において玉砕

（註）サイパン島における戦闘間負傷等により米軍の俘虏となつた者及少数の生存者は終戦後米軍により各個に復員した。

南洋第二支隊（備第四三七二部隊）

年 月 日	略 歴
昭和 一八 一一	軍令により南洋第二支隊編成下令
一八 一一 二四	編成完結（鉄嶺）
	南洋第二支隊の編組次のとおり
	第四独立守備隊本部、独立守備歩兵第十九大隊、第二十大隊、搜索第五十四連隊 搜索第十連隊の一部、戦車隊、工兵隊
一八 一一 一〇	鉄嶺出發
一一 一一 一二	満鮮国境通過
一一 一一 一四	釜山港出帆
一九 一一 一四	南海、クサイ島上陸
	爾後同島の守備
二〇 八 一五	停戦
九 二	終戦
二〇 一一 一一	内地帰還のためクサイ島出帆
一一 一一 三〇	浦賀港上陸

昭和二〇 一二三
復員完結

独立歩兵第三三一大隊（膽第一八三一八部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 六 一	軍令陸甲第五十八号により独立混成第五十旅団、臨時編成並南洋第五支隊復帰下令
六 五	独立歩兵第三三一大隊編成完結（硫黄島）
	爾後同島の警備に任ず
二〇 二 一八	米軍上陸開始するや反撃に努むるも海空よりの砲爆撃に逐次損耗甚しく遂に後退のやむなきに至る
二〇 三 一七	全員突撃を敢行同島に於いて玉砕す
	（註）硫黄島における戦闘間負傷等により米軍の俘虏となつた者は終戦後米軍により各個に復員した。

独立歩兵第三四一大隊（備第一七五七〇部隊）

年	月	日	略	歴
昭和一九	二	二五	陸軍機密第一〇〇号により歩兵第十九連隊、第三大隊臨時編成下令	
	二	二六	編成完結（移稜）	
	三	一四	移稜出発	
	三	一六	満鮮国境通過	
	三	二〇	釜山港出帆	
	四	一八	トラック島着	
	五	一八	モートルロツク諸島上陸	
			同日より同島守備	
	六	九	編成改正により独立混成第五十一旅団独立歩兵第三四一大隊に改編	
	一〇	三〇	転進のためモートルロツク諸島出帆	
	一一	一一	トラック諸島秋島に上陸	
			同日より同島守備	
	二〇	八	一五	停戦
	九	二	終戦	
	一二	二七	内地帰還のためトラック島出帆	

	昭 和 二 一
	一
	六
	三
	浦 賀 港 上 陸
	復 員 完 結

独立歩兵第三三七大隊（備第一七五五六部隊）

年	月	日	略	歴
昭和一九	二	二二	陸軍機密第一〇〇号により歩兵第七十五連隊第三大隊臨時編成下令	
	二	二五	編成完結（朝鮮会軍）	
	二	二八	南海派遣のため会軍出発	
	三	三	釜山出帆	
	三	二五	南洋群島トラック諸島七曜島に上陸	
			同日より同島守備	
	六	三	臨時編成改正下令	
	六	七	独立混成第五十一旅団独立歩兵第三三七大隊に改編	
至自	二〇	二〇九	トラック諸島の防衛戦斗に参加	
	八	一五	停戦	
	九	二	終戦	
	一	五	内地帰還のためトラック港出帆	
	一	一四	浦賀港上陸	
	一	一七	復員完結	

独立歩兵第三三九大隊（備第一七五六八部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 六 六 七	軍令により独立歩兵第三三九大隊編成下令 編成完結（トラック島）
二〇 八 一 五	大隊は朝鮮第十九師団および第九師団の派遣隊をもつて編成す 爾後秋島に主力を木曜島に一部を配置しトラック島附近の守備に任ず 停戦
九 二	終戦
二一 一 一 五	内地帰還のためトラック港出帆
一 一 四	浦賀港上陸
一 一 七	復員完結

独立混成第五十二旅団司令部（備第一七五七五部隊）

年	月	日	略	歴	
昭和	一八	一一	二五	軍令により南洋第三支隊本部編成下令	
		一一	三〇	編成完結（鉄嶺）	
		一一	一四	鉄嶺出発	
		一一	一六	満鮮国境通過	
		一一	二〇	釜山出発	
		一九	一〇	ボナベ島上陸	
				爾後同島の守備に任ず	
		六	一〇	ボナベ島において南洋第三支隊本部を主体として独立混成第五十二旅団司令部編成完結	
				爾後同島の守備に任ず	
		二〇	八	一五	停戦
			九	二	終戦
		二〇	一三	二三	内地帰還のためボナベ島出帆
		二一	一	五	浦賀港上陸

昭和二一
一
八
復員完結

独立混成第五十二旅団戦車隊（備第一七五八〇部隊）

年月日	略	歴
昭和一八 一一 二五	軍令により南洋第三支隊戦車隊編成下令	
一一 三〇	編成完結（鉄嶺）	
一一 一四	鉄嶺出発	
一一 一六	満鮮国境通過	
一一 二〇	釜山出発	
一九 一一 一〇	南洋群島ボナベ島に上陸同島守備	
六 一〇	編成改正により独立混成第五十二旅団戦車隊と改編	
	爾後引続き同島の守備	
二〇 八 一五	停戦	
九 二	終戦	
二〇 一一 二三	内地帰還のためボナベ島出帆	
二一 一 五	浦賀港上陸	
一 八	復員完結	

独立守備歩兵第二十八大隊（備第二九七四部隊）

年	月	日	略	歴
昭和一九	四	二	陸重機密第一七五号により編成下令	
	四	五	編成完結（北安省綏化）	
	四	六	南方派遣のため綏化出發	
	四	六	鮮満国境通過	
	四	一二	釜山到着	
			同日第九派遣隊長の指揮下に入る	
	四	一三	釜山港出帆	
	四	二六	館山港入港	
	四	二七	館山港出帆	
	五	九	サイパン島上陸	
	五	一六	サイパン島出發	
	五	一七	グアム島西北方約一七〇哩に於て敵潜水艦の攻撃を受く	
	五	一九	サイパン島上陸	
			同島の守備	

昭和一九 七 一八

サイパン島において玉碎

(註) サイパン島における戦闘間、負傷等により米軍の俘虏となつた者及び少数の生存者は終戦後米軍により各個に復員した。

独立歩兵第三四二大隊（備第一七五七六部隊）

年	月	日	略	歴
昭和一八	一一	二五	軍令により南洋第三支隊第一大隊編成下令	
	一一	三〇	編成完結（鉄嶺）	
	一一	一四	鉄嶺出發	
	一一	一六	満鮮国境通過	
	一一	二〇	釜山出發	
	一一	二〇	南洋群島ボナベ島に上陸	
			同日より同島守備	
	六	一〇	編成改正により独立混成第五十二旅団歩兵第三四二大隊と改編	
			爾後引続き同島の守備	
	二〇	八	一五	停戦
	九	二	終戦	
	二〇	一一	〇	内地帰還のため米海軍LSTにてボナベ島出帆
	一一	二五	浦賀港上陸	
	一一	二七	復員完結	

独立歩兵第三四三大隊（備第一七五七七部隊）

年月日	略歴
昭和一八 一一 二五	軍令により南洋第三支隊第二大隊編成下令
一一 三〇	編成完結（鉄嶺）
一一 一四	鉄嶺出發
一一 一六	満鮮国境通過
一一 二〇	釜山港出帆
一九 一一 一〇	南洋群島ボナベ島上陸 同日より同島守備
六 一〇	編成改正により独立混成第五十二旅団歩兵第三四三大隊と改編 爾後引続き同島の守備
二〇 八 一五	停戦
九 二	終戦
一一 一〇	内地帰還のためボナベ島出帆
一一 二五	浦賀港上陸
一一 二七	復員完結

独立歩兵第三四五大隊（備第一七五七九部隊）

年	月	日	略	歴
昭和	一八	一一	一七	軍令により混成第五連隊編成完結（広島）
一九	一一	一五		中部太平洋派遣のため字品港出帆
		二一	四	ポナベ島に上陸
				同日より同島の防衛に任ず
		六一	〇	編成改正により混成第五連隊を独立歩兵第三四五大隊に改編
				同日より引続き同島の守備
	二〇	八一	五	停戦
		九二	二	終戦
	二〇	一一	一	内地帰還のためポナベ島出帆
		一一	二	浦賀港上陸
		一一	二	復員完結
		二五	二	

独立混成第五十二旅団工兵隊（備第一七五八二部隊）

年	月	日	略	歴
昭和	一八	一〇	一五	軍令により独立混成第五連隊工兵中隊編成下令
	一〇	二〇		編成完結（広島）
	一二			字品港出帆
	一九	一	八	南洋群島ボナベ島上陸
	六	一〇		編成改正により南洋第三支隊工兵中隊と合併し独立混成第五十二旅団工兵隊に改編す 爾後同島の守備
	二〇	八	一五	停戦
	九	二		終戦
	二〇	一三	二三	内地帰還のためボナベ島出帆
	二一	一	五	浦賀港上陸
	一	八		復員完結

独立混成第五二旅団通信隊（備第一七五七五部隊）

年	月	日	略	歴	
昭和	一八	一一	二五	軍令により南洋第三支隊通信班編成下令	
		一一	三〇	編成完結（鉄嶺）	
		一一	一四	鉄嶺出発	
		一一	一六	満鮮国境通過	
		一一	二〇	釜山出発	
		一九	一〇	ボナベ島上陸	
		六	一〇	爾後ボナベ島において同島の守備に任ず	
				ボナベ島において南洋第三支隊通信班を基幹とし独立混成第五十二旅団通信隊を編成	
				完結	
				爾後引続き同島の守備に任ず	
		二〇	八	一五	停戦
		九	二	終戦	
		一一	二	三	内地帰還のためボナベ島出帆
		一一	一	五	浦賀港上陸

昭和二一
一
八
復員完結

野砲兵第一〇連隊第三大隊

年 月 日	略 歴
昭和一九二二	二五五作命甲第九五号に依り野砲兵第一〇連隊第三大隊編成下令
二二	同日編成完結（三江省、佳木斯）
二二七	派遣のため佳木斯出發
二二八	鮮満国境（図們）通過
三二	釜山着
三三	釜山港出帆
三八	横浜港入港
三九	横浜港出帆
三一九	アリアナ諸島サイパン島上陸
	同日より同島の守備に任ず
七一八	サイパン島において玉碎す
	（註）サイパン島に於ける戦闘間負傷等により米軍の俘虏となつた者及び少数の生存者は終戦後米軍により各個に復員した。

第一四師団通信隊

年	月	日	略	歴
昭和一九	三	一	軍令により第一四師団通信隊編成下令	
	三	五	編成完結（満州チ、ハル）	
	三	一	齊々哈爾出發	
	三	一三	関東州界通過	
	同	日	旅順着	
	三	一八	大連港出帆	
	三	三一	門司寄港	
	四	一	門司出帆	
	四	一〇	小笠原父島寄港	
	四	一八	同港出帆	
	四	二四	パラオ島上陸	
	二〇	八	爾後同島の守備並に通信業務に従事	
	九	二	停戦 終戦	

	昭和二一 一三 二五
	浦賀港上陸 復員完結

同日

第五二師団司令部

年月日	略	歴
昭和一九三九年九月九日	軍令により第五二師団司令部動員下令	動員完結(富山)
一九三九年九月九日	軍令陸甲第九五号により編成改正下令	編成改正完結
一九三九年九月九日	字品港出帆	
一九三九年九月九日	トラツク島上陸	
一九三九年九月九日	同日より同島警備	
一九三九年九月九日	間第一次トラツク島附近の戦斗に参加	
一九三九年九月九日	間第二次トラツク島附近の戦斗に参加	
一九三九年九月九日	間第三次トラツク島附近の戦斗に参加	
一九三九年九月九日	間第四次トラツク島附近の戦斗に参加	
一九三九年九月九日	間第五次トラツク島附近の戦斗に参加	
一九三九年九月九日	間第六次トラツク島附近の戦斗に参加	
一九三九年九月九日	間第七次トラツク島附近の戦斗に参加	

至自	至自						
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
一三	一三	一二	九	八	八七	六一	六一
二九	二六	一六	二	一五	二五	三〇	三〇
復員完結	浦賀港上陸	内地帰還のためトラック港出帆	終戦	停戦	間第九次トラック島附近の戦斗に参加	間第八次トラック島附近の戦斗に参加	

歩兵第六九連隊

年	月	日	略	歴
昭和	一八	九	二	軍令により歩兵第六九連隊臨時動員下令
		九	一二	動員完結(富山)
		一〇	二〇	軍令陸甲第九五号により編成改正下令
		一一	一五	編成改正完結
		一二	一七	南海派遣のため富山出發
		一一	二四	字品港出帆
		一九	六	トラツク島上陸
		一九	六	同日より同島警備
至自		一九	一六	間第一次トラツク島附近の戦斗に参加
至自		一九	一七	間第二次トラツク島附近の戦斗に参加
至自		一九	一六	間第三次トラツク島附近の戦斗に参加
至自		一九	一六	間第四次トラツク島附近の戦斗に参加
至自		一九	一六	間第五次トラツク島附近の戦斗に参加
至自		一九	一六	間第六次トラツク島附近の戦斗に参加

	至自	至自	至自	至自
	二〇	二〇	二〇	一九
	八	八七	六一	二八
	一五	二五	三一	三一
復員完結	二	一三〇	一八	
浦賀港上陸	一	一		
内地帰還のためトラック島出發	九	二		
終戦				
停戦				
間第九次トラック島附近の戦斗に参加				
間第八次トラック島附近の戦斗に参加				
間第七次トラック島附近の戦斗に参加				

第五十二師団輜重隊（柏第四六七三部隊）

年月日	略歴
昭和一八一	軍令により第五十二師団輜重隊動員下令
一一一五	編成完結（金沢）
一九一一二六	宇品港出發
二二	横浜寄港
二四	同港出帆
二一八	トラック港上陸
二二〇	サイパン寄港
二二四	テニアン島に移動
二二五	大宮島に寄港
二二六	同港出帆
三三	「トラック」島上陸
三五	爾後第一次より第八次迄「トラック」島附近の戦斗に参加 その間糧食、弾薬、諸資材の輸送補給、師団耐弾庫の構築作業等に従事す又現地自活 の方途を講ず

				昭和 二〇
			八	八一五
		九	二	停戦
	二二	一一	一五	内地帰還のため「トラック」島出発
	二二	二	一	浦賀港上陸
	二二	二	二	復員完結

第五十二師団野戦病院（柏第四六七六部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一八 九	軍令により第五十二師団野戦病院編成下令
一八 一〇 一五	編成完結（金沢陸軍病院）
一九 一 二三	金沢出発
一 二七	宇品港出帆
二 四	横浜港出帆
三 五	本輸送船団は二十数隻を以つて編成され主力を新東丸に一部を辰羽丸、暁天丸等三隻に分乗せしめ航行中二月十六日暁天丸雷撃により沈没、新東丸も三月二日雷撃により沈没し本船団は全部撃沈され死者二百余名及貨物全部海没す
	護衛艦に救助され「トラック」島鳥島に上陸、同島海軍病院跡に宿營し所在海軍部隊より衛生材料の補給を受け診療業務を開始す
	尚春島、秋島、水曜島、月曜島、冬島等に分院を開設し日々続発せる傷病者の収療に従事す
	この間後方補給の杜絶に依り糧食、衛生材料の欠乏は其の極に達し就中二十年度は主力を甘藷栽培に傾注し生命を保ち得たる状況なり

昭和二〇	八一五	停戦
九二	終戦	昭和二十年十月より二十一年十二月二十二日間に於て数十名或は数名宛各引揚船船に 救護員として乗組み帰還せり
二二三一	復員完結	

歩兵第一〇七連隊砲兵大隊（粕第四六六〇部隊）

年	月	日	略	歴
昭和一八	九	二		軍令により第五二師団歩兵第一〇七連隊補充隊動員下令 山砲兵第二六連隊第三大隊編成着手
	九	九		動員完結（舎沢）
	九	一八		南洋諸島派遣のため字品港出帆
	九	二六		ポナベ港上陸
				同日より同地附近の警備
	一一	二三		ポナベ島出発
	一一	二六		クエゼリン寄港
	一一	一		クエゼリン出帆
	一二	二		ミレ島上陸
至自	一一	八		編成改正により、歩兵第一〇七連隊砲兵大隊と改称
至自	一一	二二		第二次南洋作戦マールシャル群島警備
至自	一一	三二		マールシャル諸島戦に参加
至自	一一	三九		第三十一軍司令官の隷下に入る
一九	三	一〇		

		二〇	八	一五	爾後マーシャル諸島ミレ島の守備
		九	二	終戦	
	一〇	八	二九	内地帰還のためミレ島出帆	
	一〇	一〇	八	浦賀港上陸	
	一〇	一〇	一〇	復員完結	

独立混成第五十一旅団第一砲兵隊（備第一七五七一部隊）

年	月	日	略	歴
昭和一九	二	二三	軍令により独立混成第五十一旅団第一砲兵隊臨時編成下令	
	二	二五	編成完結（朝鮮羅南）	
	二	二八	山砲兵第二十五連隊第三大隊として羅南出發	
	三	三	釜山港出帆	
	三	二五	トラツク島上陸	
	六	三	臨時編成改正下令	
	六	七	独立混成第五十一旅団第一砲兵隊となる	
			爾後トラツク諸島の守備に任ず	
自	二〇	八三	トラツク島附近の戦闘に参加、死傷損耗：戦死四（将校一、兵三）	
	二〇	二五	停戦	
	九	二	終戦	
	二	一五	内地帰還のためトラツク島出發	
	一	一五	浦賀港上陸	
	一	一八	復員完結	

歩兵第一〇七連隊第二大隊（柏第四六五五部隊）

年 月 日	略 歴
昭和 一八 八	軍令により歩兵第一〇七連隊編成下令
九 一〇	編成完結（金沢）
九 一一	金沢出發
九 一八	宇品港出帆
九 二七	南洋「ボナベ」島上陸
	爾後同島の守備
一一 一〇	歩兵第一〇七連隊編成改正
一九 一一 一〇	南洋第三支隊は「ボナベ」島守備隊として到着、爾來同支隊長の指揮下に在りて同島の守備に任ず
一一 一〇	以降連日敵機の來襲下に陣地の構築、訓練等専ら戦闘準備に従事
二〇 八 一五	停戦
九 二	終戦
一〇 一五	より内地帰還のため逐次「ボナベ」島出帆
一〇 二五	より逐次浦賀港上陸

昭和二〇 一二 二七 復員完結

(註) 十月十五日以降配船の都合により数回に分け帰還した関係復員完結日もまちまちであるが二〇、一二、二七が最後である。

第四十三師団司令部（眷第一一九三一部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 四 二一	軍令により第四十三師団司令部動員下令
四 二五	編成完結（名古屋）
五 九	横浜港出帆
五 一九	「サイパン」島に上陸「チャランカノア」に位置し同島の守備
六 一	師団通信一分隊を「メレオン」島に派遣す
六 一	より米空軍爆撃開始
六 一三	より米軍艦砲射撃開始
六 一五	米軍上陸開始
七 一八	「サイパン」島において玉砕

（註）サイパン島における負傷者および少数の生存者は米軍の俘虜となり収容され終戦後米軍により各個に復員した。

第四十三師団通信隊（眷第一一九三九部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九四二	軍令により第四十三師団通信隊動員下令
四二	編成完結（名古屋）
五九	横浜港出帆
五一	「サイパン」島に上陸
六一	一分隊を「メレオン」島に派遣
六一	米軍上陸開始
七一	「サイパン」島において玉砕

（註）サイパン島における戦闘間、負傷等により米軍の俘虜となつた者及び少数の生存者は終戦後米軍により各個に復員した。

第四三師団兵器勤務隊

年 月 日	略 歴
昭和一九四二	軍令により第四三師団兵器勤務隊臨時動員下令
四二五	動員完結(名古屋)
五一四	館山港出帆
五二九	サイパン島上陸
七一八	同島において玉砕
	(註) サイパン島における戦闘間、負傷等により米軍の俘虜となつた者及び少数の生存者は終戦後米軍により各個に復員した。

歩兵第一三五連隊

年月日	略歴
昭和一九 四 七	軍令により歩兵第一三五連隊編成下令 編成完結（名古屋）
五 八	屯営出發
五 一 三	横浜港出帆
五 一 四	館山港出帆
五 一 九	マリアナ諸島サイパン島上陸
七 一 八	サイパン島において玉砕

（註）サイパン島における戦斗間負傷等により米軍の俘虜となつた者及び少数の生存者は終戦後米軍により各個に復員した。

第四三師団野戦病院

昭年 月 日	略 歴
昭和一九 四 四	軍令陸甲第三九号により第四三師団野戦病院臨時編成下令
四 二 一	編成完結（名古屋）
五 八	屯営出發
五 一 三	横浜港出帆
五 一 四	館山港出帆
五 一 九	マリヤナ諸島サイパン島上陸
六 二 六	パカン島派遣要員サイパン島出帆
六 二 七	パカン島上陸
七 一 八	部隊はサイパン島において玉砕す
<p>(註) 1. サイパン島における戦闘間負傷等により米軍の俘虜となつた者及び少数の生存者は終戦後米軍により各個に復員した。</p> <p>2. パカン島派遣要員は昭和二十年十月三十日パカン島出發同月二十六日浦賀港着同月三十日復員</p>	

歩兵第一三六連隊（營第一一九三五部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九四二 四二一	軍令により歩兵第一三六連隊動員下令
四二五	編成完結（岐阜）
五九	横浜港出帆
五一九	「サイパン」島に上陸 陣地の位置は当初南方地区以南「ススベ」岬に至る西海岸、爾後「ドンニー」地区守備
六一五	米軍上陸戦斗において第一線陣地手兵の大半を失う、師団予備隊であつた第三大隊（長野々村大尉）は水際に逆襲して全員戦死
六一六	第一大隊（長安藤大尉）は全力を以つて水際逆襲を行い全員壮烈なる戦死を遂ぐ
六一八	ドンニー地区に集結
七一八	「サイパン」島において玉砕 （註）サイパン島における戦斗間負傷等により米軍の俘虜となつた者及び少数の生存者は終戦後米軍により各個に復員した。

歩兵第一一八連隊（營第一一九三三部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九四二	軍令により歩兵第一一八連隊動員下令
四二五	編成完結（静岡）
五二九	横浜港出帆
六七	主力は「サイパン」島に上陸し、第三大隊は「テニヤン」島に上陸す
六一五	米軍「サイパン」島に上陸開始
	「サイパン」島に上陸直後六月十一日より大規模なる空襲開始せられ十五日米軍上陸を開始せり、師団は所在部隊を以つて水際に之れを撃退せるも米軍執に上陸を続行し来り十六日夕刻迄に橋頭堡を占領せり、此所に於いて十六日夜陰に乗じ全力を以つて水際に逆襲するに決し連隊も亦全力を以つて之れに参加し克く海岸線迄突破したるも天明と共に米軍の艦砲及爆撃に依り大なる損耗を受け第一大隊は「チャランカ」東方「ヒナンス」山に於て山崎少佐以下全滅せり、翌十八日師団命令に依り連隊は第一線の收容準備に依り各所に奮戦し二十八日迄に殆んど全員死傷せり、残存せる人員は七月五日軍旗を焼却し七月七日午前三時を期し総攻撃に転じ最後の兵に到る迄敵中深く突入す

昭和一九 七一八

全員サイパン島部隊玉砕す

九三〇

「サイパン」島陥落するや敵は引続き「テニヤン」島に上陸を開始す、大塚少佐以下第三大隊は歩兵第五〇連隊と共に奮戦し全員戦死す

(註) サイパン及テニヤン島における戦闘間負傷等により米軍の俘虜となつた者及び少数の生存者は終戦後米軍により各個に復員した。

独立歩兵第三三五大隊（備第一七五五九部隊）

年月日	略歴
昭和一九一六	軍令により独立歩兵第三三五大隊編成下令
一九一六	編成完結（西カロリン諸島「メレヨン」島）
	昭和十九年六月独立混成第五十旅団臨時編成改正に依り独歩三三一、三三二、三三三三三四大隊より所要の将兵を集め独歩三三五大隊を編成せり
	昭和十九年部隊上陸当初より八日頃迄特に爆撃熾烈にして其の間部隊は只管防禦陣地障碍物防空壕の構築に専念しつゝ一部の戦斗教練、教育等を実施し在りしが「サイパン」島陥落以後食糧の供給路を遮断され直ちに現地自活のため農耕、漁撈に重点を交換せり然れども土地は珊瑚礁にして農作品の生長充分ならず漁撈を奨励せしも資材不足等のため必要カロリーの摂取意の如くならず次第に将兵共其の体力減衰し来れり更に病魔に犯さるる者増加し医薬品の不足と相俟つて戦病者増加の一途を辿れり
二〇一〇	内地帰還のため「メレヨン」島出発
二〇一〇	別府港上陸
二〇一〇	終戦
二〇一〇	停戦
二〇一〇	終戦

昭和二〇一〇一〇
復員完結

-113-

2121

独立混成第五十一旅団司令部（備第一七五六四部隊）

年	月	日	略	歴
昭和一九	二	二三	軍令により独立混成第五十一旅団司令部動員下令	
	二	二五	編成完結（新京）	
	三	三	釜山港出帆	
	三	一二	東京港出帆	
	三	二五	トラック島上陸	
			同日より同島警備	
	二〇	八一五	停戦	
	九	二	終戦	
	二一	一五	内地帰還のためトラック島出帆	
	一	一五	浦賀港上陸	
	一	一八	復員完結	

独立混成第五十一旅団通信隊（備第一七五六四部隊）

年	月	日	略	歴
昭和一九	二	二五	第八派遣隊通信隊を満州新京に於て編成	
	二	二七	新京出發	
	二	二九	滿鮮国境（安東）通過	
	三	二	釜山港出帆	
	三	二五	「トラツク」島に上陸、派遣隊内の通信連絡に任ず	
	六	七	軍令により編成改正、第二四派遣隊通信要員を編合して独立混成第五十一旅団通信隊を編成完結	
			爾後「トラツク」諸島の七曜島守備旅団間の通信連絡に任ず	
	二〇	八	一五	停戦
	九	二	終戦	
	二	一	五	内地帰還のため「トラツク」島夏島出帆
	一	一五	浦賀港上陸	
	一	一八	復員完結	

独立混成第五三旅団通信隊

年	月	日	略	歴
昭和一九	五	二二	軍令陸甲第五八号により独立混成第五三旅団通信隊臨時編成下令	
	六	一一	編成完結（パラオ島）	
			同日よりパラオ島嶼の防備	
至自	一九	九七	中部太平洋第一次パラオ作戦に参加	
至自	二〇	二九	中部太平洋第二次パラオ作戦に参加	
至自	二〇	三〇	中部太平洋第三次パラオ作戦に参加	
至自	二〇	三一	中部太平洋第四次パラオ作戦に参加	
	八	一五	停戦	
	九	二	終戦	
	一一		内地帰還のためパラオ港出帆	
	一二	二六	浦賀港上陸	
	一二	二八	復員完結	

南洋第四支隊（柏第一二五〇一部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一八 一二 一二	軍令により南洋第四支隊編成下令
一二 一三	編成完結（松江）
一二 一五	松江出發
一二 二二	門司港出發
一二 二三	モートロック、サトウワン島上陸
一九 一一 一三	爾後同島の守備並に陣地構築に任ず
	支隊は東部軍司令官の隷下にて十九年一月七日トラック港到着と共に海軍第四艦隊司令官の隷下の第四根拠地隊司令官の指揮下に入る
一九 三 一〇	海軍の指揮を脱し第五十二師団の隷下に入る
一〇 三 一	同日及十一月六日の二回に亘り独立混成第一旅団の主力は現地自活のため指揮を脱しトラック島へ転進す
	戦斗経過の概要は左の通り
	昭和十九年二月七日大型機来襲あり対空戦斗戦死七、負傷一三、携帯兵器数挺及航空燃料一部焼失を緒戦として同年八月十七日に至る間主として大型機、時に中型機編隊

二〇 八 一五
 九 二
 二〇 一〇
 二〇 一一 八
 二〇 一一 一一

停 戦
 終 戦
 内地帰還のためモートルク出発
 浦賀港上陸
 復員完結

にて稀に単機にて四〇回に亘り来襲、爆撃又は焼夷弾攻撃を行う、其の都度対空銃砲火を以て対戦す此の間敵機撃墜五撃破一〇損害を与へ之を撃退せり
 特に五月一日には大型小型機を交へ来襲せし外戦艦三、巡洋艦三、駆逐艦六、艦種不詳五、計一七隻を以つて約四時間連続サトウワン島に艦砲射撃を行う、日没に乗じ東方に退避せり本戦斗に於て受けたる損害戦死兵三、負傷下士官以下一〇に過ぎざりしも兵器弾薬器材、糧食、被服約書を失い樹木大半は樹枝葉を失い陣地其の他の大半は殆んど曝露するに至れり
 八月以降も敵機は時々飛来せるも高空より偵察するのみ
 支隊は後方補給杜絶するに至り自隊生産品、現地調弁品を以つて給養を得、戦力保持に大なる支障なきを得たり

歩兵第一四五連隊

年月日	略歴
昭和一八 五一 一四	軍令陸甲第四五号により歩兵第一四五連隊臨時編成下令
一一 一〇	編成完結（鹿児島）
一九 六一 一九	鹿児島出發
六 二三	横須賀着
七 二	横須急港出帆
七 九	父島着
七 一二	父島港出帆
七 一四	硫黄島上陸
	爾後同島の警備
二〇 三 一七	硫黄島において全員玉碎

（註）入院転送患者及び少数の生存者は各個に復員した

